

滋賀医科大学医学部附属病院放射線部部長

渡邊 嘉之 先生

日本放射線科専門医会・医会

理事長 山田 恵

自己機能評価委員会委員長 森 壱

画像診断品質保証のための自己機能評価の結果に基づく査察報告

日本放射線科専門医会・医会

はじめに

画像診断の品質保証を認定する公的システムは、我が国には存在していません。しかし、米国や韓国では長らく存在しており、法的拘束力も存在しています。そこで、日本放射線科専門医会・医会（JCR）では、国内における画像診断における品質保証を認証できるシステムを考案し、2019年にオンラインアンケートシステムを用いた調査を実施しました。アンケートを回答する為のURLは、日本専門医機構認定放射線科専門医研修プログラムに登録されている施設（連携施設、協力施設を含む）の施設担当者に、電子メールで送付しました。

アンケート（設問数144問）に参加することで、国内における画像診断に関する医療レベルを客観的に判断する材料となることが期待できます。アンケートの設問では、現時点で最上と考えられるものを集めており、すべてを達成することは困難と考えられるものでした。しかしながら、実臨床に沿った回答をすることによって、各施設の状況が、国内施設の中でどの程度であるかということを把握することができます。

<設問策定における基本的概念>

1. 患者にとって最も有効で、侵襲性の低い方法を選択すること。
2. 被検者の全身状態を考慮し、与えられた状況下で最も質の高い検査を行うこと。
3. 施行された検査から最も質の高い情報を引き出すこと。
4. 取得した情報の中で診療に資する内容を文書に記録し、当該臨床科の医師に伝達すること。

5. 緊急を要する場合は、電話等の手段を用いて直ちに当該臨床科の医師に伝達を行うこと。
6. この診療領域の先達として、教育研究活動に従事すること。

画像診断自己機能評価の結果および査察による評価

アンケート対象施設は、放射線科専門医総合修練機関、修練機関、特殊修練機関であり、回答施設数は 97 施設でした。

JCR による採点の結果、貴施設は暫定第 4 位でした。点数の妥当性を検証するため、2025 年 6 月 5 日に、JCR の担当委員 8 名（主査：森壘，副査：山田恵，水沼仁孝，領域サーパーバイザー：本多正徳，菅原俊祐，大田英揮，鈴木智大，佐久間享）が訪問査察をいたしました。実際の臨床業務を見学した上で、適切な画像診断設計，被曝管理，画像診断業務における安全管理，画像診断機器の管理，読影業務の質および適切な報告，院内診療科との相互関係，運用を含む，画像診断業務の全体における貴施設から示された回答の妥当性を検証いたしました。査察の結果，僅かに評点の変更がありましたが，貴施設の自己機能評価の結果は概ね妥当であると判断いたしました。

従いまして，貴施設における画像診断業務は，国内の主要施設の中においても，非常に質の高いものであると評価いたします（評価 S）。質の高い画像診断業務は，施設全体における診療のレベルを担保し，医療安全に寄与するものと考えられます。

引き続き，質の高い放射線科診療を継続し，貴施設がますます発展されることを期待します。

以下、各領域での講評を附記します。貴院での今後の見直しの際に参考にして下さい。

「0：報告必須事項」

「1：適切な画像診断計画」

- ・大学病院として適切な画像診断計画がたてられており、管理も適切にされている
- ・非常にたくさんの検査を施行しておられるが、画像診断管理加算4を算定できている点は素晴らしい
- ・緊急検査の連絡に対しては、もう少し放射線科医が関与することが望ましい
- ・そのためには常勤医師数がもう少し必要かもしれない
- ・医師の負担軽減上も今後検討する必要がある

「2：被曝低減・安全管理」

「3：保有する画像診断機器」

- ・全体的に非常に高いクオリティで管理・運営されている
- ・特に、大学病院という high volume center として複数の画像診断装置を有しているにもかかわらず、CT、MRI いずれにおいても全てがハイエンドの装置で診療が行われており、レベルの高い画像診断がなされている
- ・一方で、小児に対する CT の適応判断、被曝に関する説明については、担当医にお任せしておられる状況かと思われるので、この点について放射線科医が介入し、病院全体として統一された基準を設けることで小児被曝低減へ貢献する余地がある
- ・また、MRI の安全性に関する講習会は、理想的には雇用形態を問わず全職員を対象とすることが、安全管理の視点からは望ましい

「4：診断機器の精度管理」

「5：造影剤投与」

- ・日常診療における、CT・MRI 装置の精度管理はしっかりと行われている
- ・RIS 内に記録簿が記録できるようなシステムであり、効率的な記録管理が来ている
- ・訪問した CT 室（操作室/読影室）において、アナフィラキシーの対応マニュアルが、職種別フロートして張られていたが、その他にもアナフィラキシーに関する掲示がやや雑然と掲示されている印象がある
- ・また、その他にも造影剤減量プロトコルなども掲示されており、雑然としていてわかりにくいと思われ、少し整頓が必要と思う
- ・なお、掲示物が多すぎることについては、病院機能評価でも指摘されることがある
- ・造影剤に関する職員向けの講習会は、部門内のみではなく、医療スタッフ全体を対象にすることも検討すると、より医療安全の試みとしてよいかもしれない

「６：読影」

「７：読影のタイミング」

「８：適切な報告」

- ・胸部写真の読影も含めて高い読影率を達成している
- ・読影とその報告のシステムは高いレベルで構成・提供されており素晴らしい

「９：相互教育システム」

「１０：読影作業のサポート体制」

「１１：画像運用システム」

「１２：保険運用・機器運用，その他」

- ・放射線部内でのカンファレンスが定時で毎日行われており，相互教育に貢献している．こ
の中で適宜落とし症例や問題症例も扱われており，症例情報の共有が十分に図られている
- ・救急部とのカンファレンスが週に１回ということだが，緊急 CT/MRI には放射線
医を通さず受け付けている検査もあり，カンファレンスの頻度を増やして，コミ
ュニケーションを密にとっておくことが望ましい

「オブザーバー・コメント」

- ・日中に８名の放射線科医が読影室にいること自体，大学病院でも稀有の部類と思われ、人
材の集中配置に成功しているように思う
- ・読影室にて電話でコンサルティングを行う先生（瀬古先生）をお見掛けし，院内で頼りに
されていることがよく判った
- ・読影室が整然としており，書籍の分類も行き届いていた．隅々まで管理が行き届いている
ように感じた